

IUI 時の際に排卵誘発を行い発育卵胞数 1 個および 2 個での成績に差はあるか

徐クリニック ART センター

伊藤真理 清須知栄子 峰千尋 中塚愛 越智雪乃 徐東舜

(目的) IUI 時、排卵誘発剤を併用した際に発育卵胞数が 1 個の場合と 2 個の場合に妊娠率や多胎率などの臨床成績が異なるかどうかを比較検討した。

(対象) 2013/1/1 から 2018/12/31 の期間で、当院不妊外来で初回 IUI を実施した症例中、極端な乏精子症、片側卵管閉鎖を除く 648 症例を対象とした。

(方法) IUI 時の排卵誘発法は、クロミッドおよびレトロゾール単独か、もしくはそれらに少量の hMG を併用した。排卵誘発剤投与後、hCG 投与日に直径 16mm 以上の発育卵胞数を計測し、発育卵胞数が 1 個か 2 個かを確定した。人工授精に用いる精子の処理は、Isolate90、Isolate45 さらに精液を重層し、400G で 15 分間遠心を行った。その後、上清を除去し、mHTF を加えた精子混濁液 0.3mL を IUI に使用した。処理後の運動精子濃度をカウントし  $10 \times 10^6/\text{mL}$  以下である症例は極端な乏精子症とし除外した。分析は周期あたりの妊娠率と多胎率を用いて比較検討し、さらに 40 歳未満と 40 歳以上での検討も行った。

(結果) 全体の結果は、発育卵胞数が 1 個の場合と 2 個の場合の妊娠率および多胎率は、妊娠率 10.9% vs. 17.9%、多胎率 2.3% vs. 11.1%であった。それらを年齢により分析を行った結果、40 歳未満での発育卵胞数が 1 個の場合と 2 個の場合、妊娠率 12.1% vs. 18.3%、多胎率 2.4% vs. 11.6%であった。40 歳以上での発育卵胞数が 1 個の場合と 2 個の場合、妊娠率 2.0% vs. 11.8%、多胎率 0.0% vs. 0.0%であった。

(結語) 排卵誘発剤により発育卵胞数を 2 個にした方が、妊娠率は高くなる傾向が見られたが、多胎率も増加することが明らかとなった。